

時の動き

安倍首相

大差で三選！

独裁

改憲に加速

新社会党元中央執行委員

江原

栄昭

安倍政権が今後、目指す方向

を見極めよう

改憲発議は全野党と市民の総

力で断固阻止！

——自民党の総裁選が安倍首相の大勝で終わった。安倍首相は9月14日に日本記者クラブ主催の討論会を初め、この総裁選を通じて「いよいよ憲法改正に取り組み時が来た」、「戦後70年、一度も行えなかつた憲法改正に挑戦し、

日本の新しい時代を切り開いていく決意だ」と意気込んだ。また、首相はこの間、自衛隊を憲法に明記した改正原案を次の国会に提出するとし、「今まで以上に全ての人生を懸け、実現に努力する」と明言した。今後は大差の勝利を背景に憲法9条改憲に突っ走るだろう——我々の闘いも正念場だ！

我々はいかに闘うか——最大目標は安倍改憲阻止！〈私見〉

今回は安倍改憲が日本の進路をどう決定づけるかについて私見を述べたい。冒頭に言う、安倍総理の主張は、日本国における現憲法の存立基盤「三権分

立」とその改訂手続きに照らして明らかに憲法違反だ！

日本国憲法は、第10章 最高法規 第99条で下記のとおり明記している。

◆憲法99条「憲法尊重擁護の義務」
天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。——安倍首相は内閣総理大臣だ。その総理大臣がことあるごとに改憲を主張してきている。しかも、今回は自民党の総裁選であり、明らかに憲法99条に違反している。さらに、憲法改正手続きは、

憲法 96 条に明記されているように、両院議員の 3 分の 2 以上の賛成で国会が発議するのであって総裁選での議論にすること事態が間違っている。自民党の総裁は事実上内閣総理大臣を決めることになる。内閣府には改憲発議権はないのだ。

◆安倍首相の改憲目的は「戦争のできる国づくり」であり、自衛隊の違憲状態の解消などではない。米軍などと一緒に他国軍と戦える国にすることは明白である。騙されてはならない！ 安倍政権はこの 6 年間、国会や世論を無視し憲法違反の法律を強行可決して民主主義を破壊してきた。一方で北朝鮮や中国を敵視し北東アジアの平和構築に逆らい軍事力拡大を続けている。

「安倍首相のいう「日本の新しい時代を切り開いていく」という」とは、これまで「戦前戦後を通じて成し遂げられなかった「世界の列強国」に日本を

創り上げることに他ならない。政府は既に多国籍軍への陸自派遣の検討を始めた。安倍政権による改憲の先取りが始まっている。

◆陸上自衛隊の多国籍軍派遣（戦争参加）を目論む安倍政権——断じて認められない！ 安倍政権は 2015 年に強行可決した安保法制、「国際連携平和安全活動」を適用し、エジプト・シナイ半島でイスラエル、エジプト両軍の停戦監視活動をする「多国籍軍・監視団」に陸上自衛隊の派遣を検討している。また、海上自衛隊は既に南シナ海において対潜水艦戦の訓練を実施している。さらに、地上イージス・アショアで北朝鮮がグアムを狙うミサイルを迎撃する可能性を明らかにしている。こうした軍事力行使を可能とする根拠が憲法違反の安保法制であり、一日も早く廃止させなければならぬ。同時に、いま私たちが成すべきは安倍政権

の「戦争する国」への道を全野党と市民が総力をあげて阻止することだ。

◆私たちのめざす闘い。——誌面の都合で課題だけ列挙する。

外交面 *非核平和の北東アジア創造をめざす闘いを！ *南北朝鮮の戦争終結宣言（南北朝鮮、米国、中国）の促進を働き掛ける。 *無為無策の日本（安倍）外交——世界情勢の変化に対応できない（対ロシア、対アメリカ、対北朝鮮）を糾弾する！

内政面 *誰もが人間らしく生きられる社会の創造 *働く者の地位と生活向上をめざす闘い！ *あらゆる格差是正（大都市と地方都市、大企業と中小・零細企業、女性と男性、正規と非正規、*企業収益と労働分配の是正 *来春の全国自治体選、来夏の参院選で勝利する！

（えびら ひであき）